



バヤニハン



国	籍	フィリピン
職	種	工業包装
実習実施者		マツダロジスティクス株式会社
監理団体		協同組合西海協

オロスコ ユジン サハグン
OROSCO EUGENE SAHAGUN

フィリピンには「バヤニハン」と呼ばれる伝統があります。この言葉は、「英雄」を意味する「バヤニ」に由来し、他人のために行動する人、そして人々が力を合わせて困難を乗り越える精神を表しています。昔は、村人たちが協力して一つの家を運ぶ姿が象徴でした、一人ではとても持ち上げられない重さでも、多くの手が集まれば可能になります。その姿は、人と人が支え合うことで、どんな困難も乗り越えられるという教えそのものです。

日本に来る前、私の家族の生活は決して楽ではありませんでした。それでも両親は、自分たちの苦勞を口にする事なく、私が夢を持ち、前へ進むことを支えてくれました。私はその思いを胸に、日本で技能実習をする決意をしました。私にあったのは大きな財産ではなく、両親の犠牲と揺るぎない信頼でした。その姿から私は、努力を続けることの意味や、未来を信じる強さを学びました。両親こそ、私にとってかけがえのない英雄です。

初めて日本で実習したとき、ただ箱を運ぶだけだと思っていました。しかしすぐに、それが大きな誤解であることに気づきました。私たち

の作業は、書類を正確に確認し、自動車部品を一つひとつ丁寧に扱うことです。小さなミスも許されません。扱う部品は、家族のもとへ安全に帰る父親や、長い一日を終えた人を家へ運ぶ車、後部座席で眠る子どもの命を支えています。見知らぬ誰かの人生の一部を、私たちは確かに担っているのです。

この作業は、決して一人ではできません。重い荷物を皆で支え合い、互いに声を掛け合いながら作業を進めます。困難に直面したときほど、助け合いの力が必要になります。その中で私は、遠く日本にいても「バヤニヤン」の精神が生きていることを実感しました。それは特別な行動ではなく、日々の小さな努力や、仲間を思いやる気持ちの積み重ねなのです。

実習し続けるうちに、私の手は荒れ、傷つき、固くなりました。しかし私は、その手を誇りに思っています。手のひらに残るタコや傷は、これまで積み重ねてきた努力と決意、そして両親の静かな犠牲の証です。この手で私は、誰かの命を守る部品を扱っています。私たちが運んでいるのは製品だけではありません。信頼と安全、そして未来そのもののなのです。

いつか故郷に帰ったとき、両親の手を強く握り、「ありがとう」と伝えたいと思います。

今の私があるのは、決して一人の力ではありません。これまで出会った人々、支えてくれた仲間、そして家族という英雄たちがいてくれたからです。私はこれからも「バヤニハン」の精神を胸に誰かを支える存在であり続けたいと思います。